

## 第8回 加古川流域委員会 議事録（概要）

■日時：平成21年3月25日(水) 10:00～12:05

■場所：滝野図書館 3階会議室

■出席者：委員12名、河川管理者7名、自治体関係者1名、傍聴者24名、報道関係者1名

### 1. 今回の議題について

加古川の河川整備計画に反映させる河川整備の内容について、河道内樹木、堤防整備についての審議と、第1～7回委員会の審議内容の中間とりまとめを行いました。

議題	・河川整備内容について ・中間とりまとめについて
----	-----------------------------

### 2. 第7回加古川流域委員会審議内容の報告

【説明概要】加古川流域委員会庶務より、前回の第7回加古川流域委員会審議内容の確認が行われました。

- 河道内樹木の管理については、輪伐の実施方法の具体化や、住民参加による経費削減について、また、流下阻害からの管理の必要性についてのご意見をいただきました。さらに、樹木管理の基準をとりあえずつくって、モニタリングで確認しながら見直していくことが確認されました。
- 干潟を構成する微細粒土成分が影響を受けて堆積していること、また、アイアシが生えている干潟の重要性が確認されました。掘削にあたっては、河川管理者が把握できないことが多いため、順応的に工事を進めていくことの重要性が確認されました。
- 鬮竜灘の改修については、観光にも役立つような整備や掘削に伴う上下流に与える影響などについてご意見がありました。
- 第1回から第7回までのテーマごとの議論経過について取りまとめることのご要請を受けました。

### 3. 河川整備の内容について

【説明概要】河川管理者より、前回委員会で行った審議への回答を含め、河川整備の内容について説明が行われました。概要を以下にまとめます。

- 河道内樹木については、治水上、流下阻害となるようなところは切っ払い、それ以外のところは環境に配慮しながら輪伐という手法に基づいて計画的に伐採をしていきたいと考えています。
- 川の流速、川が押し流そうとする力など、流れの特性を考慮した上で、樹木が生えにくい河道を計画の中に取り組みでいきたいと考えています。
- 伐採した樹木の活用方法として、河川工事への利用、キノコの栽培への利用、チップ化した燃料として利用など、地域の方々と協働していきたいと考えています。
- 堤防がない区間については、堤防の整備をしていかなければいけないと考えておりますが、住宅が張りついているようなところで堤防整備を行う場合には、町づくりと一体となって考えていく必要があると思っています。

#### 【意見および質疑応答】

- 先日の大雨で、加古川大堰が放流した際、ごみが流れてきた。その中にヤナギではない大木が何本も含まれていた。支川の川の状態や山の状態を、考えていくことが大切だと思う。支川の管理者に聞いてみたいと思う。(播本委員)
- 加古川の一部に堤防の整備ができていない区域が残っているが、これには何か理由があるのか。(土肥委員)
- (河川管理者による回答)築堤事業を下流から行った結果、中・上流部に整備がまだ到達していないと考えています。

### 3. 中間とりまとめについて

【説明概要】河川管理者より、第1～7回委員会での審議の内容について説明が行われ、これまで議論してきた内容をとりまとめた中間とりまとめの説明が行われました。概要を以下にまとめます。

- 整備計画対象洪水について、戦後の洪水のうち、雨量、流量、浸水家屋、浸水面積等の規模が大きい平成16年10月洪水を対象に、具体的な対策案を検討していきます。
- 干潟について、干潮時には陸地になり、ヨシ群落が繁茂しているところを干潟とします。干潟を保全し、干潟以外の部分の河道掘削を行います。河道掘削を行う際は、モニタリングを行いながら順応的な管理を行います。モニタリングを行う際は、地域活動や環境学習との連携を図ります。
- 水際植生について、水際植生は極力保全し、緩やかな勾配による平水位以上の河道掘削を行います。河道掘削を行う際は、モニタリングを行いながら順応的な管理を行います。モニタリングを行う際は、地域活動や環境学習との連携を図ります。
- 甌穴について、甌穴を保全し、甌穴以外の部分の河道掘削を行います。
- 鬮竜灘について、鬮竜灘を保全し、鬮竜灘の流れや景観に配慮しながら、露岩部以外の河道を一部修正します。
- 河道内樹木について、治水上支障のある樹木は伐採する。輪伐による適切な管理を行います。モニタリングを行いながら順応的な管理を行います。地域の方々と協働した管理を行います。河川営力を活用したメンテナンス負荷の小さい管理を目指します。

